

# 誕生日に母を語る



誕生日は年に一度自分を産んでくれた「お母さん」を思う日…。

## 小さい頃のこと みんな覚えてるよ

田川亜寿香 88歳 / 佐世保市

お母さん、私は生まれてきて幸せやったことがいっぱいあるよ。恵まれてるのに、気づかなくて来たことがいっぱいあったけど、今になって、あのときは幸せやったなあ、あのときがあるから、今こんなに幸せだと思えるよとやねって、いつも考えるよ。

## 本棚にさりげなく本を並べよう

text: 木村 乃  
ビズデザイン株式会社 dk@biz-design.co.jp

「家は借りて住め、本は買って読め」。敬愛する作家・灰谷健次郎の作品にある台詞だ。

「本」は書棚に置いておけば、家族共有の財産になる。家族内コミュニケーションの媒介にもなる。「お父さんが読んでるご本おもしろいの？」とくれば、父としてはちょっと誇らしくもある。親の書棚から子の書棚にいつの間にか移っていく。わが子の成長の証だ。

さて、いまどきは本もケータイで読む時代。場所もとらないし、本屋に立ち寄る時間も不要。効率的だ。でも、親が読んでる本に子が触れる機会は確実になくなる。子が大人の世界を垣間見る機会がなくなる。

DSやPSPのようなパーソナルな道具は、自分にとって最も都合がよい時間に好きなだけできる。勝った、負けたと他人と争う面倒もない。

進歩の光が強いほど、弊害の影は濃くなる。社会発展のため、技術高度化のためにと、よかれと思ってがんばっているぼくたちの仕事や生き方。時々立ち止まって考えてみようか、お父さん。

\*\*\* 読者プレゼント \*\*\*  
荻安牧場の牛乳がブレンドされた  
**飛驒牛乳ピン**  
900ml 2本  
3名様 (900円相当)  
賞味期間は5日。ノンホモジナイズで、生クリームが、上にとまる牛乳です。  
●応募は「牛乳希望」と書いて、FAX・メールで編集部まで(締切8/30)。〒住所、氏名、TEL、本紙入手先を記入のこと。

朝の一杯、お風呂上りにゴクゴクと一本…。しよつちゅう飲んでる牛乳ですが、乳牛はいつからいつまでおっぱいが出るのでしょうか？

私も子どもたちが生まれた瞬間、かける言葉は「ありがとう」しかなかったけん。

お化粧もなんもせん、服も買わん、おいしいものが食べたいとも言わん。いろんなことをいつもそのまま受け入れる、お父さんみたいに私はなりたい。生んでくださった、ありがとう。

## オババの育児日記

### 蛙の子は蛙

たっくんの怖がりな血？ それとも育ち方？ 先日の家族旅行の際、「飛行機に乗るよ！」とたっくんに言うと、「耳が痛くなるから、飛行機はイヤだ」と言う。仕方ないから乗る前に「アメ」を持たせて何とか搭乗。たっくんは、アメに釣られて機上の人(子ども)となった。

が、乗るには乗ったが、離陸寸前に「おなか痛い、痛い」と言い出してトイレに駆け込んだ。精神的なことだから下痢に違いない。というのも、たっくんは自宅以外でほとんどウンチをしない。そしてなんと、帰りの飛行機でも、たっくんはアメを握りしめながら、たっくんもやトイレに走った。そのときも下痢。笑えない話だ。

たっくんの小さな心は、きっと不安でいっぱいだったんだね。オババは反省！(男の子は乗り物が好きだと、誰が決めたア〜!)。オババだって苦手なことがあるのに、たっくん、ごめん。

けれど、このおかしな世の中で生きていくには、もはや生きる力ではなく、生き抜く力=サバイバル力が必要だ。どうすればたっくんを強くたくましく育てられるか。確かにオババは心配性だが、けんかめつぼう強いから、きっとたっくんも強くなるに違いない(?)。

う〜ん。これはもう、怖がりオババではダメだ。パパに任せるしかない判断。ところが機内のたっくんパパを見て、ふと心配になった。離陸時に見せた、明らかに緊張の表情！ しかも、わずかな揺れにも過敏に反応する姿。ふむふむ、わかったぞ。やっぱり、血は争えない。

さて、そんなたっくん一家に、先日カブトムシが仲間入り。というのも、実は、虫も苦手なたっくん。普段から、蚊や蟻を触ることもできないのだから大変だ！ そんなたっくんがカブトムシを飼ったら、どうなるか。写真は見ての通り、生まれて初めてカブトムシと遊ぶ(はずだった)たっくん。この先が、ちと思いやられるのである…。(オババ)

### たっくん初めてカブトムシと遊ぶの巻



●池川クリニック 横浜市金沢区大道2-5-13 TEL045-786-1122

## 余計な心配が、不安なお産を招きます

朝4時、突然の電話で起こされました。「〇〇の親です。2日も産まれません、娘の体が心配なんです。大丈夫なんですか?」。突然の電話。しかも挨拶もなしの詰問調にびびり、「お産に付き添うことはできないんですか。助産師に帰れと言われたから帰ってきたけど今から(朝4時ですよ!)そっちに行くからいいですね」と立て続けに話されます。



池川クリニック院長 池川 明  
■帝京大学医学部大学院卒。医学博士。1989年横浜市に、産婦人科「池川クリニック」を開業。「胎内記憶」の研究発表がマスコミで紹介され話題に。著書やDVD多数。

お産が長引く娘さんを見て、「大丈夫ですか?」と心配そうに、時には腹を立てながら尋ねられることがあります。私のクリニックではあまり分娩誘発をしないので、3日がかり、4日がかかりのお産はしょっちゅうなので、赤ちゃんが元気であれば気にしません。が、それが気に召さない方もいるようです。お産が長引くのは、赤ちゃんがのんびり屋さんで、ゆっくり生まれたがる場合。またへソの緒が巻き付いていて、締まると苦しいので、自らへソの緒をゆるめながらゆっくりお産が進行する場合もあります。そこで陣痛促進剤を使うと、赤ちゃんのリズムを崩し、急に苦しくなり帝王切開になることもしばしばです。こうした場合、とにかく慌ててはいけません。

お母さん自身にお産の不安、不満などがあると、陣痛が弱くなります。また、周囲で心配している人がいると、それだけで陣痛が弱くなったり、止まってしまうこともよくあります。「娘は大丈夫なんですか?」もう2日も苦しんでいるんですよ」と言われたら、出産は1分先のことはわかりませんが、「絶対に大丈夫」と迂闊に保証できません。従って「もし心配なら、大きな病院に移るように手配しますよ」とお答えしました。

すると「大丈夫かどうか素人にはわからないから、先生にお聞きするんです」というお言葉。これにも下手にお答えできません。なぜなら、「大丈夫ですよ」と安心させるために言ったとしても、お産がこじれた場合、必ずと言っていいくらい「だから心配していたのに、あのとき先生は、大丈夫って言ったでしょ。どうしてくれるんだ!」となるのが目に見えます。

「周囲の人が心配すると、それだけでお産は止まってしまう。そのことは知っていますか?」とお尋ねすると、「本人にはそんなことは言いません」という。でも、言わなくても、全身の態度、表情で心配が体に表われています。そのような人がお産の現場にいただけで、一気にお産はこじれる方向に向かいますので、結果的に「やっぱり、私の心配していた通りになった」といわれます。しかしご自分が原因でお産がこじれているとは思わないものなのです。

お母さんはスポーツでいえば、応援団のようなもの。これから大切な試合に臨むアスリートに、「大丈夫? 今日は無理そうだから休んだら」などと声をかけようものなら、いい結果は残せないのでしよう。やはり周囲の人には、がんばっている産婦さんを励ます役を担ってほしいものです。



牛舎の前で夫婦でニコリ

取材協力 ● にんじん CLUB <http://www.ninjinclub.co.jp/> にんじんホームキッチン <http://www.ninjin-hk.net/>